

知事記者会見の概要

日 時：令和7年8月7日（木） 10:02～10:37

場 所：502会議室

出席記者：10名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「デカボMYスコア」体験イベントの開催について
- (2) やまがたフルーツE X P Oの開催について

代表質問

- (1) 高温・少雨による影響と県の対応について

フリー質問

- (1) 米の増産に係る首相表明について
- (2) 代表質問に関連して
- (3) みちのくウエストライン「石巻新庄道路・新庄酒田道路」について

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。県内、ようやく雨が降ったと思いましたが、現在、警報が発表されている地域もあります。長井、そして飯豊、小国だったと思いますけれども、くれぐれも気をつけていただきたいというふうに思います。これについては、後ほどまた触れますので。まず私から発表が2点ございます。

まず1点目ですけれども、お手元に資料を配布しておりますけれども、「デカボMYスコア」体験イベントの開催について申し上げます。

県では、カーボンニュートラルの実現に向けて、県民一人ひとりが地球温暖化の問題を「自分ごと」としてとらえ、脱炭素アクションにつなげていただくことを目的に、新たにデジタルツール「デカボMYスコア」を導入いたしました。

これは、11問の簡単な質問に回答することで、個人の生活スタイルを分析して年間のCO2排出量を推計し、日々の生活による環境への影響を見える化することができるツールであります。これが「デカボMYスコア」ですね。（補足：担当者が「デカボMYスコア」の画面イメージをフリップで提示）

このように、移動手段、ショッピング、自宅、食事という4分野の質問ごとに、年間のCO2排出量を知ることができます。

ウェブサイト「カーボンニュートラルやまがた」にアクセスいただきますと、どなたでも、手軽に数分程度で計測が可能です。

また、より多くの県民の皆様に「デカボMYスコア」に触れていただくため、8月16日土曜日、モンテディオ山形対いわきFC戦の会場、NDソフトスタジアムで、体験イベントを開催いたします。

当日体験していただき、アンケートにご回答いただいた方には、さくらんぼの^{せんていし}剪定枝を使用したノートを先着200名様にプレゼントいたします。これがそのノートです。（補足：担当者が当該ノートの実物を提示）

加えて、モンテディオ山形の協力による特別企画も実施いたします。

今後、クラブ公式SNSにて選手の「デカボMYスコア」の計測結果を発表するほか、体験イベントブースでは、ご自身の計測結果により特別なプレゼントが当たる企画も用意しております。

「デカボMYスコア」をきっかけに、多くの県民の皆様に、無理なく、楽しく、カーボンニュートラルについて考え、脱炭素アクションにチャレンジしていただきたいと思います。と考えております。

2点目は、「やまがたフルーツEXPO」の開催についてです。

お手元に資料を配布しておりますけれども、やまがたフルーツ150周年を記念して「やまがたフルーツEXPO」を8月9日土曜日と10日日曜日に、山形市のビックウイングで開催いたしま

す。

旬のフルーツやスイーツの販売、最先端のスマート農業機械の展示、「それいけ！アンパンマンショー」や料理愛好家の平野レミさんのトークショー、フルーツを使ったお菓子作り教室など、子供から大人まで楽しめる企画が盛りだくさんであります。

前日の、明日8日には、やまぎん県民ホールイベント広場を会場に、すいか割り大会や流しぶどうなどのイベント、県産フルーツを使ったスイーツの飲食ブースをそろえた「フルーツEXPO前夜祭」も予定しております。多くの県内外の皆様のお越しをお待ちしております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

さくらんぼテレビの柿崎です。よろしくお願いします。

先程も、大雨のお話ありましたが、最近、やっと雨が降ってきましたが、7月から8月の頭、数日にかけては、高温・少雨続いておりました。農家の方々にも、甚大な被害があって、県のほうでも対策会議、講じられてましたが、今、把握されている見通しや影響について、教えていただきたいのが一つと、先日、県のほうでも農業用水に関しての支援などを発表されてましたが、それも含めた対応についてお伺いできればと思います。

知事

はい、ではお答えいたします。県内は、高温・少雨の状況が続いておりましたが、5日以降、各地でまとまった降雨となり、現在、長井市、小国町、飯豊町に大雨警報が発表されております。今のところ、交通への影響が出ておりますが、人的被害や住家被害などの報告はありません。一方、これまでの高温・少雨により熱中症で救急搬送された方が、過去10年間で最も多くなっておりますし、農業をはじめ様々な影響が生じております。

まず、農業への影響ですが、水稻につきましては、用水が確保できなかったほ場では、土壌の乾燥・亀裂や、イネの枯れ上がりなどが確認されています。また、果樹では、県内全域で果実肥大の停滞や着色不良が見られ、野菜でも、生育の停滞や萎れが見られております。

次に、観光面についてですが、水位の低下により村山市の最上川三難所舟下りや長井市の三淵溪谷みふちボートツーリングでは、運行が中止となっております。また、戸沢村の最上峡芭蕉ライン観光では、コースを変更して運航するなど一部影響が出ておりますが、今後の水位の回復に応じて運航再開等になるものとお聞きをしております。

生活用水につきましては、一部の市町村で、給水制限や節水の呼びかけを行っているところがありますが、現段階ではほとんどの市町村で影響は生じておりません。酒田市では、最上川の塩水遡上の影響を受け、小牧浄水場での河川からの取水を停止しておりましたが、昨日から取水を再開したと聞いております。

企業局酒田工業用水につきましては、最上川の塩水遡上による影響により、受水している

企業において、一部操業に影響が生じております。

こうした影響に対し、県の対応としましては、農業につきましては、8月4日から、農業用水の確保や、園芸作物の高温対策に対して補助する緊急支援を実施しております。合わせまして、県が作成している「高温少雨対策マニュアル」を活用し、生産者への栽培管理などの徹底を図ってまいります。

酒田工業用水道につきましては、現取水口の上流部から仮設取水を行うなどの対応をしておりますが、あわせて、恒久的かつ抜本的な塩水遡上対策につきましては、現在、受水企業と丁寧意見交換を行いながら検討を進めるとともに、応急的な対応につきましても、検討に着手したと聞いております。

今後の天候によりましては、影響の拡大も懸念されます。气象台によりますと、今後1か月程度は、平年に比べ晴れの日が多く、平均気温は高いものの、降水量は平年並みか多いと見込まれているところです。

県としましては、引き続き、各分野の影響について把握に努めるとともに、庁内及び関係機関と情報共有を行いながら、必要な対策を講じるなど、高温・少雨への対応に万全を期してまいります。

県民の皆様には、今後も暑い日が続くと見込まれておりますので、熱中症にならないように、引き続き、熱中症警戒アラートの発表状況にもご留意の上、こまめな水分補給や適切なエアコンの使用など対応していただきたいというふうに思っております。少雨に対しては、市町村や関係機関からの情報にもご留意をいただき、無理のない範囲での節水へのご協力や農業用水の確保に努めていただきますようお願いいたします。

以上です。

☆フリー質問

記者

NHKの内藤と申します。よろしくお願いします。

政府がですね、一昨日、米の政策の関係閣僚会議を開きまして、米の増産に舵を切る方針を打ち出しました。

県内ではですね、高齢化などで生産者が減少していますけれども、こうした増産というのは実現可能だというふうにお考えになられるかという点、政府の方針に対する受け止めに教えていただきたいというふうに思います。

知事

はい、分かりました。8月5日に開催された政府の閣僚会議では、石破総理が、この度の米価高騰の要因が米不足に起因するということをお認めになったうえで、「米の増産に舵を切る政策に移行する」と表明をされました。

米の増産について、本県の生産現場では、歓迎する声がある一方で、需給バランスが緩ん

で、米価の下落を心配する、そういう声もお聞きをしております。

増産にあたりましては、生産者と消費者双方が納得できる米の適正な価格形成が重要であります。そのためには、需要に応じた米生産を推進し、需給と価格を安定させていくことが必要と考えております。

このため、先月23日に青森県で全国知事会議が開催されましたけれども、その中で私から、「我が国の食料安全保障を確保するため、政府には20年、30年先を見据えた農業政策を進めていただきたい」と発言をしたところであります。

これを受けて、全国知事会として緊急提言を取りまとめて、今週の4日に、岩手の達増知事と、私にかわって本県の折原副知事が小泉農林水産大臣に要請を行いました。

さらに、今週5日に鶴岡市で、新潟県と福島県と山形県の三県知事会議が開催されました。その会議でも、米政策について協議を行い、米の主要な生産県である3県が連携して、政府に「米の安定的な供給と適正な価格形成」について、生産現場の実情を踏まえた提言を行うことを確認したところであります。

政府においては、この度の米価高騰の検証結果を踏まえ、意欲ある生産者が、今後も安心して持続的に米を生産できるような仕組みを検討していただきたいというふうに思っております。

今、記者さんがおっしゃった増産の件でありますけど、実情を言いますと、本県は食料供給県として米を安定的に供給する責任があるというふうに、まずは考えています。

本県では、令和7年産の主食用米の作付面積を、昨年の実績に比べて、約1割拡大をしております。

また、8年産、来年ですけれども、ブランド米である「つや姫」で500ha、「雪若丸」で1,000ha増産することとしております。

今後も、米生産県として、県産米の全国に占めるシェアの拡大に取り組んでまいりますが、どの程度増産するかにつきましては、今後、政府から公表される需給見通しなどを踏まえ、県農業再生協議会において検討していく予定であります。

肌感で言いますと、私、県内いろいろ回っていて、水田だったところが荒れ地になっているというところを何箇所も見かけております。そして、水田を耕作している生産者がですね、かなり高齢になっているというふうにも聞いておりますし、ですから私が知事会で申し上げた、「20年先、30年先」というのは、それを含んでいます。実際、生産者はどんどんと減少しているというのが実態です。ですから、増産と言ってもそんなに簡単に増産できるのかという、ちょっと心配があります。ですが、やはり、我が国の食料、主食でありますから、食料安全保障という観点からでもですね、やはり、米の安定生産ということは、しっかり国をあげてやっていく必要があるというふうに思っています。

米の主産県として、できる限りの貢献をしていきたいと思いますし、政府でやはり、それなりの、米を生産しても生活していけるという、そういう後継者がこれからも出ていただけるというような環境整備、そういった農業政策をですね、しっかり行っていただくことで可

能になるのかなというふうに思っています。現状のままではもう、なかなか増産というのは厳しいと思います。

記者

テレビユー山形の倉内と申します。よろしくお願いします。

先ほど高温・少雨についての現時点での被害状況などをお話いただいたかと思うのですが、一方で昨日の夜から今朝にかけて県内、まとまった雨が降りましたが、その雨によるダムの貯水率、ちょっと回復したところもあるのかなと思うのですが、もし、最新の状況が分かれば教えていただけますでしょうか。

知事

はい、そうですね、私の手元に、8月6日午前8時現在の県土整備部管理ダムの貯水状況という資料が来ておりますけれども、11のダムについて、本日時点で平年と比べてということでもありますけれども、ざっと言ってみますか。

蔵王ダムが65.7（％）、前川ダムが47.4、留山川ダムが51.1、白水川ダムが57.5、神室ダムが59.8、高坂ダムが42.7、綱木川ダムが83.2、木地山ダムが23.7、荒沢ダムが47.3、温海川ダムが62.3、田沢川ダムが42.7と、6日午前8時現在ということで来ております。

記者

ありがとうございます。前回7月28日にダムの貯水状況をデータでいただいていたのですが、そうなるのだいぶ回復してきているところかなとは思いますが。

知事

そうですね。また夜も今朝も降りましたので、また直近の数字が分かりましたらお知らせすると思います。回復傾向だと思っております。ただ、その後もずっと降るかどうか分かりませんので、いろいろ注視をしながら対応策を適切にしていかなければいけないというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。あと、やはり、一部の地域ではまだ夜間の給水制限ですとか、前回の知事会見で知事のほうからも節水を呼びかけられた場面もあったかと思うのですが、まだまだ油断はできない状況なのかなと思うのですが、あらためてこの水不足にあたって県民に呼びかけたいこと、また生産者へ呼びかけたいことなどありましたら教えてください。

知事

そうですね、先ほど申し上げた繰り返しになるかと思うのですけれども、今後1か月の予報ということでは、やはりまとまった降雨が来るかどうかまだ定かではないと。「平年並み」か「多い」と見込まれるということでもありますけど、まだまだ暑い日が続くということもありますし、今ちょうど田んぼを見ますと、水稻の出穂期にあたりまして、その時は一番水が多く必要になる時期だということなので、やはり、出来秋が間もなく、9月が出来秋ということになりますので、それに向けて本当に大事な時期だと思います。

沢水を利用しているところでは、黄色く枯れているようなところもあるという情報もあるので、先ほど申し上げたように、まず出来秋に向けて水稻はじめ果樹、野菜、いろんな農作物ございますけれども、国民の食料として大変重要でありますので、油断しないでやはりこれから水が少なくなってきたら、番水というようなことで、地域で話し合いながら協力し合ってこの夏を乗り切っていただきたいというふうに思っています。

また、一般県民の皆様にはですね、水は大変大切なものです。「使うな」などということとは申しません。ただ流しっぱなしにするというようなことをですね、できるだけしないで、そういう意味で無駄な使い方ということについてご配慮いただいて、水を大切に使用していただく、いわゆる節水、ライフスタイルに合わせた節水にご協力をいただければというふうに思っています。

記者

共同通信の中村です。

先ほどのNHKさんの質問に関連して、お米のお話なのですけれども、先ほどの発言で確認ですけれども、そうすると、様々ご懸念とかはお有りだと思うのですけれども、食料供給県として責任があるということで、今回首相が表明された増産の方針自体は歓迎すべきというような受け止めですかね。

知事

そうですね。たとえば生産量というようなことについては、JAの関係の方だったり、米業界の流通の方だったり、いろいろ複数の方々から状況をお聞きしておりましたけど、やはり不足していると。絶対的に不足しているということをお聞きしておりました。ですから、足りているというのと、どっちが本当なんだろうというふうに、かなり心配でありましたけれども、しっかりと検証されて、やはり不足しているということが分かれば増産ということに舵を切るのは、やはりそのお立場の方として、責任を持ってしっかりと取り組んでいただきたいというふうに思っています。

やはり、食料安全保障に関わってきますので、国際情勢を見ましてもですね、いつどうなるかも分からないというときに、食料がなくなってしまうと、国民の命に関わることになります。しっかりと主食である米を安定的に生産して確保していくことは非常に重要

な案件だというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。一方で米生産者の減少というのを見ると、簡単に増産できるのかという心配があるというふうにおっしゃっていましたがけれども、その点で知事会での緊急提言もありましたけれど、政府に要望したいこととか、地方の自治体として求めている支援助策としては、主なものはやはり後継者支援というところが主なものでしょうか。どういったことを政府に求めているのか、有りますか。

知事

そうですね。やはり再生産できる価格というのが担保されなければ、生活ができないわけですね。生活ができないとお米を生産することはできません。米を生産することができないと、消費者の方にも不利益が生じるという、悪循環になってしまいますので、やはり、米を再生産できる、そういう価格整備でありましたり、環境整備、そういったことが重要になってくると思います。

うちの県はですね、新規就農者は東北で一番多いですけども、かなりの長い年月そういうふうになっているんですけど、ただ、お辞めになる、離農する方も本当に多くて、例えば400人近くの方が新規就農しますけど、1,400人の方が離農していますので、年間、プラスマイナスして1,000人減少しているわけです。そういうことがずっと続いておりますので、うちの県だけではないと思いますが、全国的にそういった状況をしっかりと政府として把握して、どこに問題点があるのか、米の価格はもちろんだし、生産の段階でね。今、本当に農業生産者にとっては厳しい状況だというふうに見ています。肥料とかそういう資材高騰があって、価格転嫁も一気にはできないというような状況もありますし、やはり様々な課題というものを明らかにして、その対策として政策を打っていただきたいというふうに思っています。

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願いします。

別のテーマなんですけれども、道路の話なんですけど、いわゆる、みちのくウエストライン、「石巻新庄道路・新庄酒田道路」の関係でした。

先日、最上町でお隣の宮城県の村井知事も御出席されて、沿線の首長さんたちも顔をそろえてですね、「(みちのくウエストライン「石巻新庄道路・新庄酒田道路」宮城・山形・4団体連合整備促進)期成同盟会」の設立総会という形でなされたかと思います。明日には国のほうにですね、御要望に行かれるという形で、長年その看板も、古びた看板が沿線には残っていたりとかですね、地元では長年作ってほしいというような意見があった中でなかなか動きが見えにくかった中で、今回、期成同盟会も4団体が一緒になって、両県知事も足並みをそろえて国に要望されるということで、ステップがこれまでと違うのかなというような印象な

んですが、あらためてこの道路の意義とですね、今回の要望の特にこういうところを訴えたいという部分がありましたら教えていただけないでしょうか。

知事

はい。みちのくウエストラインの件でありますね。

みちのくウエストラインというのは酒田から横軸道路として石巻まで、日本海と太平洋側を結ぶそういう横軸の道路です。現在も道路はあるんですけども、非常に曲がりくねっていたり、狭かったりということで課題が多い。ところが、もう14年も前になりますか、東日本大震災のときにそのウエストラインでいろいろな物が運ばれたんです。

私、大震災があったあとですね、3日かけて県内を回りましたが、酒田に行ったときに、酒田港に着いた様々な物資、救援物資も含め、様々な物資をトラックで積んで宮城県のほうに持っていったのを、出発したのを見たんですけど、やはり道路を使っているんだなと思いましたけども、ただ、そこにいた現場の方がですね、「もう行ったが最後、いつ帰ってくるかわからないんだ」とおっしゃっていたんですよ。それだけ道路が整備されていない状況があったわけです。

やはりリダンダンシーといって日本海側と太平洋側を結ぶという道路は非常に重要だと思いましたし、縦軸、東北中央自動車道と日沿道（日本海沿岸東北自動車道）、そこにはずっと力を入れてきましたけども、だいぶつながってきた。それで横軸も、ということで、山形県の新庄―酒田のほうはですね、だいぶ着工しておりますけども、新庄―石巻、このところはまだまだ未着手区間というようなことで、やはりそこに力を入れてほしいということは地元からも言われておりましたし、私自身も必要だと思っておりました。立ち話で村井知事に話したりもですね、そんな場面もありましたけども、今回、一緒に手を携えて、これまで期成同盟会もあったんですけども、さらにそれを強固なものにして、両県知事も一緒になって全員で一つの期成同盟会を設立して大きな動きにしていこうということで、この間の設立ということになりました。

明日、第1回目の要望にまいりますけど、政府のほうはいろいろと今、いろんな状況があつてですね、どなたにお会いできるかもやっとわかったのかなという感じでありますけども、とにかく1回はまず行かなきゃいけないというようなことで、政権が安定してからまたということもありますけども、まずもって明日行くということになっています。

やはり地元からは悲願だったんだということで大変喜ばれております。これからさらに力強く政府に働きかけていくということになりますので、地元の皆さん、宮城県と合わせてしっかりと働きかけて活動していきたいというふうに思っています。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

高温・少雨の話にまた戻るんですけども、先ほど冒頭のほうで、今回農作物にもいろいろ

ろ被害が出ているということで、8月4日から農家に対する緊急支援を行うというお話があったかと思うんですが、私もちょっと恐縮でどういった内容か把握していなかったんですけれども、具体的にはどういった、財政の支援とかそういったものになるのかどうか、確認だったんですけれども。

知事

はい。県と市町村と一緒にあってその施策を行うということでありますけれども、緊急支援ということで、令和7年6月からの高温・少雨に対する緊急支援ということで、プレスリリースは一度8月4日にしているんですけれども、内容はですね、「農林水産物等災害対策事業」として、1つには農業用水確保対策です。水路などの工事、揚水ポンプ等のリースまたは購入、燃料費等の支援、そういったことをですね、県が3分の1、市町村が6分の1補助をして行っております。

それからもう1つは、園芸作物等高温対策であります。中身は遮光資材、換気扇、ミスト噴霧装置、散水・灌水システム等の機器・資材の購入に要する支援となっております。同じように県が3分の1、市町村が6分の1ということで補助をしていくということになっています。

記者

具体的には何かの購入等の補助というようなものがメインになるという認識でよろしかったでしょうか。

知事

そうですね。